



2022年9月28日

各位

会社名 共同印刷株式会社  
代表者 代表取締役社長 藤森 康彰  
(コード番号: 7914 東証プライム)  
問合せ先 取締役専務執行役員 渡邊 秀典  
(TEL. 03-3817-2525)

## マテリアリティ (重要課題) の特定に関するお知らせ

当社は、2022年9月28日開催の取締役会において、当グループが優先的に取り組む重要課題としてマテリアリティを特定しましたので、下記の通りお知らせいたします。

### 記

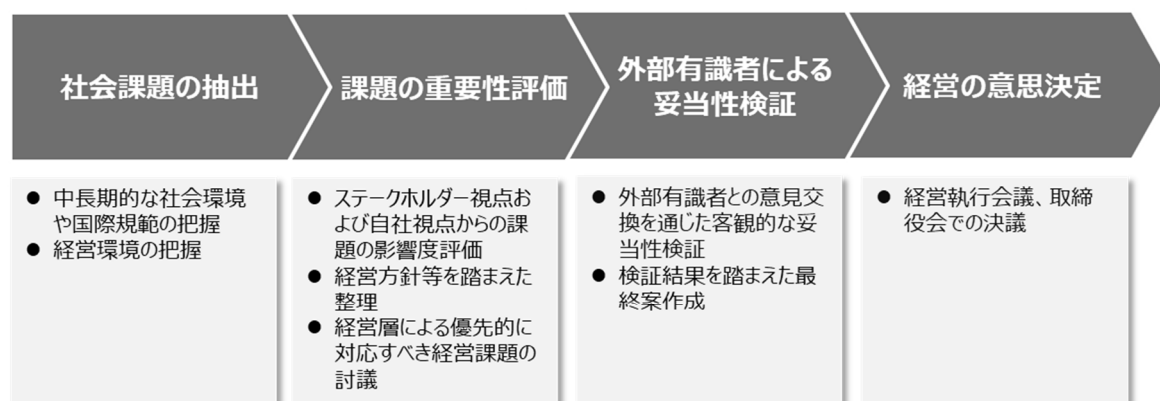
#### 1. 特定の目的と経緯

当グループでは、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上をめざし、社会課題に与える影響を考慮したうえで、中長期的な価値創造能力に重要な影響を与えるものをマテリアリティとして特定いたしました。

#### 2. 当グループのマテリアリティ

##### (1) 特定プロセス

まず、将来的なメガトレンドや事業成長の機会としてのSDGs、事業へ著しい影響を及ぼすESG課題などの外部環境、自社の競争優位性や市場分析、経営方針などをもとに、課題の重要性評価を行いました。さらに経営層を中心に議論を重ね、外部有識者による妥当性検証を経てマテリアリティを特定しました。



##### ■ 参照した主なガイドライン・資料

- SDGs ・ISO26000 (組織の社会的責任) ・GRIスタンダード
- FTFE ・内閣府: 未来投資戦略 ・経産省: 価値協創ガイダンス
- 他社のマテリアリティ
- 当グループ中期経営計画 ・当グループCSR報告書 等

## (2) マテリアリティ

この度特定したマテリアリティは以下の通りです。詳細は別添を参照ください。

### ■価値創造領域

- ・多様なライフスタイル
- ・スマート社会
- ・循環型社会

### ■経営基盤領域

- ・地球環境との共生
- ・価値創造人材の活躍
- ・責任ある企業行動

## 3. 今後について

持続可能な社会の実現に貢献するとともに、中長期的な企業価値向上をめざすサステナビリティ経営の実装に向け、サステナビリティ経営推進体制の検討を進め、決定次第、随時お知らせいたします。

以 上

《別添》

マテリアリティ	マテリアリティ特定の経緯	主な取組
<b>価値創造領域</b>		
<b>多様なライフスタイル</b> <b>～情報コミュニケーションで、豊かさ</b> <b>と幸せを実感できる暮らしをつくる</b>	<p>生活者の価値観の変容や多様なライフスタイルに合わせ、情報コミュニケーション手段もデジタル技術の進展を背景とした多様化が進んでいる。</p> <p>当社は、紙媒体で培った技術および顧客基盤をもとに、生活者の新たなライフスタイルの実現に向け、生活者の「人生の質」向上に資するデジタルソリューションサービスを創出する。生産的な働き方の実現や、時間・場所に制約されない学びの機会、新たな体験価値創出など、生活者の豊かな暮らしを実現するとともに、成長性を確保する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマートな働き方支援ソリューション</li> <li>・生涯学習向けソリューション</li> <li>・体験価値創出ソリューション</li> </ul>
<b>スマート社会</b> <b>～情報セキュリティで、誰もが安心・</b> <b>便利な社会をつくる</b>	<p>労働人口の減少や、健康寿命延伸、都市化の進行、自然災害の深刻化などを背景に、先進的なデジタル技術やデータの利活用により、都市・地域の機能やサービスにおける諸問題の解決、快適性や利便性を含めた新たな価値を創出する取り組みが推進されている。</p> <p>当社は、これまで培ってきた情報セキュリティ技術を、ヘルスケアや金融、自治体など公共性の高い分野のデジタルソリューションへ展開し、生活者や社会の利便性・生産性を向上させる。誰もが安心・便利にサービスを受けられる社会の実現に向け、各種ソリューションを提供し、成長性を確保する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次世代ヘルスケアソリューション</li> <li>・スマートな金融サービス向けソリューション</li> <li>・スマート自治体向けソリューション</li> </ul>
<b>循環型社会</b> <b>～革新的なパッケージとサービスで、</b> <b>サステナブルな未来をつくる</b>	<p>資源の持続的な利用や廃棄物の減量、気候変動対策などの取り組みが求められるなか、持続可能な形で資源を循環利用する「サーキュラーエコノミー（循環経済）」への移行が社会課題となっている。</p> <p>当社は、培ったコア技術と包材開発能力で価値創造型イノベーションを推進し、環境配慮と使いやすさを両立した包装・容器の提供を通じて、人と地球の持続可能な未来の実現および、成長性を確保する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資源循環型ソリューション</li> <li>・フードロスソリューション</li> </ul>
<b>経営基盤領域</b>		
<b>地球環境との共生</b>	<p>国連をはじめ世界的なイニシアチブにより、国際社会が一体となって脱炭素および生物多様性の保全を推進している。</p> <p>当社は、設計から製造、利用、廃棄までのライフサイクル全体を通じてCO2排出量を削減するとともに、CO2排出量を低減する製品・サービスを社会に提供する。また、紙を利用する責任として森林資源の持続可能な活用を進め、生態系の保全に貢献する。これらの取り組みを通じて、将来的な気候変動および自然関連の財務リスクを低減させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気候変動の緩和と適応</li> <li>・生物多様性の保全</li> </ul>
<b>価値創造人材の活躍</b>	<p>事業環境が不確実性と複雑さを増すなか、企業の持続的な成長と価値向上に向け、変化に対応し、企業の競争優位を支える源泉となる「人的資本」の強化が求められている。</p> <p>当社は、めざすべきビジネスモデルや経営戦略に沿った多様な価値観を持つ人材の確保と活用、価値創造に向けた能力強化に取り組むとともに、能力を最大限に発揮できる環境を整備する。経営戦略のもと、すべての人が企業価値向上に資する「価値創造人材」として活躍することで、企業競争力を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な価値観の活用</li> <li>・価値創造人材の確保と強化</li> <li>・能力を最大限発揮できる環境の整備</li> </ul>
<b>責任ある企業行動</b>	<p>企業には、個別の危機管理だけでなく、経営戦略の実現性を高め、幅広いリスクに対応する統合的なリスクマネジメントが求められている。</p> <p>当社は、リスクマネジメント上、重要性・緊急性がより高いテーマとして、独占禁止法違反の再発防止を目的とした「企業倫理と公正な事業慣行」、社内外の人権リスクマネジメント体制強化のための「人権の尊重」、デジタル領域の成長基盤強化としてサイバー攻撃や顧客データ保護対策のための「情報セキュリティとプライバシー」の3テーマを選定。</p> <p>上記テーマを含む社内外の「総合的なリスクマネジメント」体制を構築し、健全な企業経営を支えるガバナンス体制を強化して企業の持続性を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業倫理と公正な事業慣行</li> <li>・人権の尊重</li> <li>・情報セキュリティとプライバシー</li> <li>・統合的なリスクマネジメント</li> </ul>